



「市政だより」発行から61年

ご愛読、そしてたくさん笑顔に 感謝申し上げます

「市政だより」第1,400号
発行にあたって



松本 崇

昭和26年12月、「市政だより」第1号に当時の市長であった柳原

敏一氏は「市民のみなさんへ」と題して、市政だよりを発行する意義を切々と述べられています。

「市が行っております行政の全般にわたって、その内容を率直に市民の皆さんに発表して、心から理解してもらおうと共に、これに対するまじめな批判と真剣な意見を十分に汲み入れて、これを適切に市の行政の上に生かしていきたいと考えております。そのために「大村市政だより」を発行いたします。……」

それから61年の歳月が経過したわけですが、新しくスタートしたばかりの新憲法下の民主主義における広報活動を、市長自らいかに重要視していたかがうかがえます。

現在ではインターネット関連機器の普及や、ケーブルテレビ、コミュニティFM局が大村にも設立されるなど、当時と比較すると広報としてのツールは星の数ほどになったといっても過言ではありません。市のホームページもより見やすいものに、またソーシャルメディアの活用など、時代に合ったものになるよう慎重に作業を進めています。

しかしながら、紙ベースの情報を手にとって見ることが、まだまだ各世代を通じ根幹であると考えられます。ITによる情報の発信も進めてまいります。発行号数「1,400号」という県内市町ではトップの号数を誇る市政だより（広報おおむら）は、なお一層の充実を図りながら発行を続けてまいります。

市政だよりのあゆみ

1951年(昭和26年) 12月、B4タブロイド判で大村市政だより創刊
 1954年(// 29年) 7月から上・中・下旬号と月3回発行を開始
 1964年(// 39年) B5冊子に
 1967年(// 42年) 5月下旬号が500号
 1969年(// 44年) 名称を「市政だよりおおむら」へ
 1972年(// 47年) 表紙初のカラー、1・15日号の月2回発行へ
 1984年(// 59年) 5月15日号が1,000号
 1986年(// 61年) 7月から月1回発行に
 1988年(// 63年) 「広報おおむら」へ変更、2色刷りでA4冊子に
 1996年(平成 8年) 人口8万人到達記念特別号発行
 2008年(// 20年) 現在の表紙へリニューアル
 2012年(// 24年) 12月号が1,400号

History あゆみ

1951(昭和26)年
12月号(第1号)

創刊号はB4タブロイド判で4ページ。当時の柳原市長が創刊の趣旨を説明。そのほか、日本初のモーターボート競走の施設完成の記事や、鶴亀橋を80年ぶりに架け替えると報じています。



1964(昭和39)年
1月号(第378号)



B5版の冊子に。表紙には、新しく建て替えられる(現在の)市庁舎の完成図。

1971(昭和46)年
4月下旬号(第649号)



おなじみの習字書体へ。この時のキャッチフレーズは「水と緑と花のまち」。

1988(昭和63)年
5月号(第1,086号)



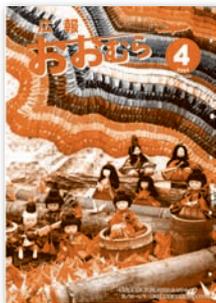
「広報おおむら」に。現在と同じA4版冊子で2色刷り。内容も一新し新たな時代へ。

1997(平成9)年
4月号(第1,212号)



オールカラーで内容も充実。紙面もリニューアルし、表紙には市民の笑顔に掲載。

2004(平成16)年
4月号(第1,296号)



ロゴを変更。紙面は2色刷りに戻し、現在と同様のスタイルに。

1,000号

1984(昭和59)年
5月15日号(第1,000号)

創刊1,000号記念でもこれまでの市政だよりの歩みを振り返っています。市民の皆さんに思い出を伺い、長崎空港の開港や大村大水害、長崎国体などを当時の市政だよりとともに振り返っています。



500号

1967(昭和42)年
5月下旬号(第500号)

市制施行25周年を記念して市民会館を建設し、完成した様子が表紙を飾っています。また、お知らせでは、2年後(昭和44年)に控える長崎国体の種目が決定し、準備を強化することを知らせています。



At that time あの時

1,200号

1996(平成8)年
6月号(第1,200号)

漫才師の内海好江師匠が大村を訪問し、大村の土地柄を気に入り、「大村寄席」の足がかりになった模様を報じています。紙面では、ハナショウブが咲き誇る様子や初夏の催しなどを紹介しています。



700号

1973(昭和48)年
2月15日号(第700号)

「国鉄新幹線終着駅大村誘致市民会議」が総決起大会を開き、新幹線の誘致を訴えるため、大村小学校から市内をパレードしています。こうした地道な活動が実り、現在では九州新幹線西九州ルートの着工が認可され、着々と整備が進められています。



That place あの場所



4少年の勇気を讃えて
—天正遣欧少年使節銅像が完成—

1982(昭和57)年
10月1日号(第957号)



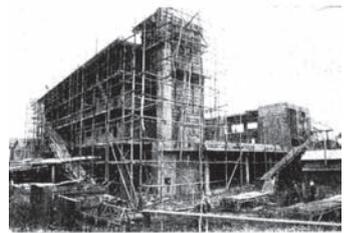
多良山系
この頃は主にキャンプ場としてにぎわっていたそうです。現在は公園として整備していますが、多良岳を望む癒しの風景は変わっていません。

1970(昭和45)年
3月下旬号(第608号)



「安心して渡れるよ。」
大村公園入口の玖島交差点に歩道橋ができたことを受けて、大村公園入口の交通渋滞は解消されました。この歩道橋は、大村公園入口の交通渋滞を解消するために建設されたものです。

1967(昭和42)年
10月下旬号(第515号)



店舗付住宅の建設進む

1960(昭和35)年
2月下旬号(第238号)



天正遣欧少年使節団の勇気を称えて銅像を森園公園に建設。現在は空港の入口に移され、県内に入出入りするお客さまを見守っています。



この頃は主にキャンプ場としてにぎわっていたようです。現在は公園として整備していますが、多良岳を望む癒しの風景は変わっていません。



大村公園入口の玖島交差点に歩道橋ができたことを受けて、大村公園入口の交通渋滞は解消されました。この歩道橋は、大村公園入口の交通渋滞を解消するために建設されたものです。



建設中の駅前アパートを掲載。現在はマンションや商業施設の建設などの市街地再開発事業が進められています。

1969(昭和44)年
10月中旬号(第588号)



「国体特集号」

昭和44年の長崎国体の開催を前に特集号を発行しています。県外からの観光客を歓迎する方法や市内の競技、声援の送り方など大会を成功させるため解説しています。2014(平成26)年には、その時以来の国体が開催されます。当時と同様、おもてなしの心で長崎がんばらんば国体を成功させましょう。

1990(平成2)年
10月号(第1,122号)



「怪鳥コンコルドに2万人大フィーバー」

地方空港へは初飛来となった超音速旅客機コンコルドが長崎空港へ降り立った様子です。長崎「旅」博覧会のイベントの一つとしてチャーターされたもので、当日は県内外から約2万人の見物客が訪れたそうです。市内は、交通渋滞や定期便に遅れが出るなど、大混乱の一日とたとえられています。

That report あの記事

1956(昭和31)年
8月中旬号(第112号)



「81分1時間38分で大村競艇 大村湾一周長距離レース」

大村競艇開設5周年記念として長距離レースが開催され、海上保安庁のヘリコプターの誘導のもと6艇が大村から川棚、大串、長浦、時津とめぐり、湾岸の観衆の声援を受けながら1時間38分をかけてゴール。

1962(昭和37)年
4月下旬号(第316号)



「松原野岳入口に市内で初の交通信号機」

市内初の信号機が松原野岳入口交差点に設置され、点灯式と通り初めが行われています。児童たちの交通安全を祈り、松原地区の関係者が中心となって信号機をつくる運動が始まり、地区住民全体で代金などを工面し設置されたそうです。この頃の信号機は、赤、青、だいたい色だったことも記されています。

Interview



**大村が大好き
いいところをもっと伝えたい**

市民サポーターカメラマン
く だ ま つ あ き のぶ
久田松 昭暢さん

Qカメラを始めたきっかけは?

ウォーキングを始めた時に、普段気づかない風景に癒されました。何気なく咲く草花などを撮り始めたのがきっかけです。

Q市民サポーターカメラマンへの応募の動機は?

「広報おおむら」を見て応募しました。動機は、大好きな大村のいいところをもっと伝えたいと思ったからです。

Qやってみていかがですか?

腕章を付けていると人とのふれあいが楽しめます。また、イベントの様をお伝えするのも大事ですが、催事の準備などに携わっている人たちにもスポイトをあてるべきだと感じました。

Q写真が掲載された時の感想は?

うれしかったです。自分は外に出ることが大好き。いろいろな催しに出かけ魅力を伝えていきたいですね。

市民サポーターカメラマンの皆さんには、ボランティアで市内のイベントの写真撮影などを行っています。



→久田松さんにご提供いただき、「広報おおむら11月号」に掲載させていただいた写真。

Conclusion

愛される広報紙づくりをめざして

市政だより「広報おおむら」は、市制施行70周年という節目の年に、創刊61周年、発行数1,400号を迎えることができました。発行数は県内最多を誇ります。時代の流れに沿いながら行政と市民の「かけはし」として、明るい話題、楽しい話題、時には悲しい話題などを伝えながら歩みを続けてきました。

これからもより一層地域に密着し、皆さんの活動や話題など地域の活性化に資する紙面づくりが使命と考えています。

今後とも、市民の皆さんに愛される広報紙となるよう心掛けてまいります。これからも「広報おおむら」のご愛読をよろしくお願いたします。

秘書広報課広報担当職員一同

市民の皆さんの声が欠かせません

「広報おおむら」に関するさまざまなご意見、ご感想をお寄せください。また、市のホームページでもアンケートを行っています。ぜひご利用ください。

■秘書広報課(内線209)

And future

これから



2012(平成24)年
12月号(第1,400号)



次のページからは「広報おおむら12月号」です。今月はこの特集のほか、70周年記念事業に沸いた今年の振り返りや、皆さんに必要な情報をお伝えします。

「広報おおむら」ができるまで

- ①企画、情報収集…各課の情報や市の動きなどを見極め情報を収集し、皆さんに何を伝えるべきかを企画します。集まった材料を基に編集会議を行いページ割が決定します。
 - 「広報おおむら」の原稿締切日は、掲載したい月号の2か月前の20日です。(例)2月号掲載原稿→12月20日
- ②取材…広報担当職員が、さまざまなイベントや現場にカメラを持って出向き、取材を行います。
 - 「広報・大村市」の腕章を付けています。見かけたらぜひ、とびっきりの笑顔で応えてください。
 - 「広報おおむら」に掲載できなかった写真はデータで保存し、市のホームページの「とれたてカメラスポット」などに掲載しています。データが必要な人は秘書広報課まで。
- ③編集…画像や原稿を基に広報担当職員で文章やレイアウトを考え、専用のソフトで編集を行います。
- ④入稿…編集データを印刷会社に渡します。
- ⑤校正…入稿したデータを見やすさや伝わりやすさなどを考えながら、1週間かけて何度も校正を行います。
- ⑥印刷…校正が終了したら印刷に入ります。11月末現在、32,050部を印刷・製本しています。
- ⑦納品…「広報おおむら」の納品日は毎月22日です(土・日・祝日の場合前納)。町内会に配付する印刷物などをまとめ、翌23日(同)にシルバー人材センターや各住民センターに依頼し配付しています。
- ⑧配付…町内会を通じて各家庭へ配付をお願いしています。また、関係機関や駅、市の施設などにも設置しています。



懐かしの市政だよりを市のホームページで

創刊号から現在までの市政だより「広報おおむら」をすべて、市のホームページに掲載しています。今回ご紹介したバックナンバーもご覧いただけます。ぜひご覧ください。

昔の広報

検索

1982(昭和57)年 12月1日号(第961号)
ちょうど30年前、長崎自動車道(大村～長崎多良見)が開通しました。

